



八坂神社

豊前総鎮守小倉祇園



北九州市小倉北区域内二番二号

八坂神社社務所

電話(〇九三)五六一一〇七五三番
FAX(〇九三)五九二一七五三二番



- ① 八坂神社
- ② JR小倉駅 モノレール小倉駅
- ③ 祇園太鼓の像
- ④ 小倉城
- ⑤ 無法松の碑
- ⑥ 市役所

■JRでお越しの方

- ・JR西小倉駅下車 徒歩5分

■バスでお越しの方

- ・八坂神社前バス停 徒歩5分
- ・室町・リバーウォークバス停 徒歩3分

■車でお越しの方

- ・小倉駅北インターより10分
- ・大手町インターより10分

一、御祭神



北殿

スサノオノミコト
須佐能袁命
クシナダヒメノミコト
櫛名田比賣命
アマノホヒノミコト
天之菩卑命

アメノオシホミミノミコト
天之忍穗耳命
アマツヒコネノミコト
天津日子根命
イクツヒコネノミコト
活津日子根命

クマヌクスビノミコト
熊野久須比命
イチキシマヒメノミコト
市寸島比賣命
タギリヒメノミコト
多紀理比賣命

タギツヒメノミコト
多岐津比賣命

南殿

スサノオノミコト
須佐之男命
オオナムチノミコト
大名牟遲命
スクナヒコナノミコト
少名比古那命

クシナダヒメノミコト
櫛名田比賣命
アキヒトテンノウ
顯仁天皇

一、由緒

祇園さまは九世紀ころには既に小倉の地に祀られておりました。

その後慶長五年(一六〇〇年)の関ヶ原の戦で戦功をたて、四十万石の城主となって丹後国(現在の京都府)からこの豊前の地に移ってきた細川忠興公が、元和三年(一六一七年)に領内の総鎮守として、改めて祇園社の社殿を小倉城下の鑄物師町に創建しました。

社伝によりますと、城外に鷹狩りに出かけた忠興公が小さな祇園社の祠の中にある御神体を見ようと杖でこじ開けようとしたところ、中から一羽の鷹が飛び出し、忠興公の目を蹴ったと言われています。失明同然になった忠興公は、神様に対して非礼を働いた神罰だと深く反省し、莊嚴な社殿を建立し、これによって忠興公の目も快癒したと伝えられています。

以後、八坂神社は変わることなく小倉城下の人々の信仰を集めてきました。明治になり、祇園社から八坂神社へと名前が変わり、昭和九年に現在の小倉城内に社殿は遷座されています。

祭礼・神事

- 歳旦祭 (一月一日)
- 元始祭 (一月三日)
- おくべ祭 (一月九日)
- 節分祭 (二月三日)
- 祈年祭 (二月中旬)
- 數地破い (五月〜六月)
- 例大祭【祇園祭】(七月第三金・土・日曜日)
- 夏越祭【わくぐり祭】(七月三十一日・八月一日)
- 七五三祭 (十一月十五日)
- 新嘗祭 (十一月下旬)
- 除夜祭 (十二月三十一日)

境内社祭礼・神事

- 恵美須社 宵戒祭 (一月九日)
- 恵美須社 十日戎祭 (一月十日)
- 稻荷社 初午稻荷祭 (二月初午の日)
- 祖霊殿 春季合同慰霊祭 (三月彼岸頃)
- 神明社 春祭 (四月中旬)
- 祖霊殿 中元合同慰霊祭 (八月九日〜十五日)
- 祖霊殿 秋季合同慰霊祭 (九月彼岸頃)
- 猿田彦社大祭 (十月十一日)
- 神明社 秋祭 (十月中旬)
- 水神社 大祭 (十月二十一日)
- 春日社・金刀比羅社大祭 (十二月二十二日)